

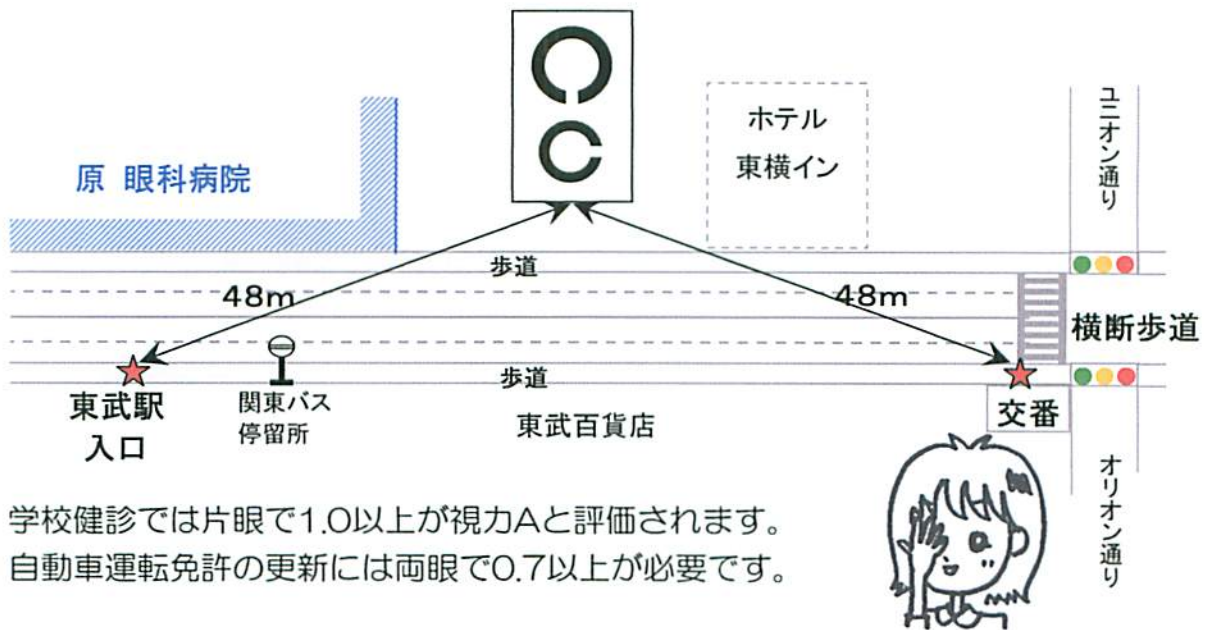


建物外壁のリニューアル工事（模様替え）完了

東日本大震災による損傷の修復を兼ねて、9月より改修をしていた建物外壁の工事が完了しました。新しい外壁はブルーを基調に、大きな視力表と、北斗七星をデザインしました。

壁面視力表の見方

視力表は縦5m、横1.3mで、48mの距離から測定できるようにデザインされています。具体的には★の位置、横断歩道の交番側か、東武駅入口の歩道が適しています。

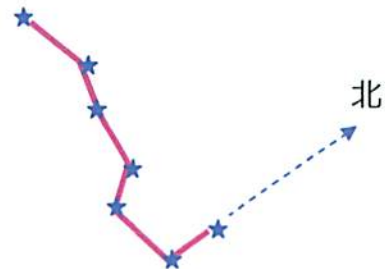


- ▷ 学校健診では片眼で1.0以上が視力Aと評価されます。
- ▷ 自動車運転免許の更新には両眼で0.7以上が必要です。

★ 北斗七星

あるひとつの物体を見たときに、周囲の見える範囲を「視野」と呼びます。視野は、緑内障や網膜色素変性症などの病気になると狭くなります。見るものまでの距離を離して遠くで見れば視野は広がりますが、夜空の星はとても遠くにあるので距離を離しようがありません。そのため、視野が狭くなると、ひとつひとつの星は見えても、その配列がわからなくなってしまいます。例えば、ヒシャクの形に並んでいる北斗七星も、ヒシャク全体の形が分からなくなってしまうのです。

「この星座の配列がちゃんとわかりますか?」というメッセージを込めて、北斗七星を壁面に描きました。ちなみに、壁面の北斗七星は、夜空で北極星を探すときに、ヒシャクの先の2つの星を結んで延長していくと、ほぼ天の北極（北極星の位置、北）を指すように配置してあります。



壁面をご覧になる際は、歩行者や自転車にぶつからないよう、十分ご注意ください。